

**社団法人となって初めての支部大会**

支部長 木村友保 (名古屋外国語大学)

大学英語教育学会は2008年8月に社団法人となった。その後の最初の支部大会が6月6日に行われた。「国際的視野からみた英語教育の羅針盤」を大会テーマとしてかかげ、個人研究発表9、ワークショップ2、研究会発表2、講演会1、シンポジウム1が、名古屋外国語大学のキャンパスで実施された。社団法人化は、大学英語教育学会の会計的側面の透明性を高めるために推進された運動だが、その推進が学会の研究・教育活動にブレーキをかけるものにはならないかと心配されていた。今回の支部大会はそんな心配を払拭するだけの成果をあげたと思う。この意義は大きい。

目次

社団法人となって初めての支部大会 木村友保	1頁
5th CamTESOL 2009 津田早苗	2頁
研究会紹介 ライティング研究会 木村友保	3頁
講演会報告 日野信行氏 吉川 寛	3頁
木下 徹氏 大石晴美	4頁
会員著書紹介 『国際結婚—多言語化する家族とアイデンティティ』 小宮富子	5頁
掲示板 中部支部紀要編集委員会	6頁
事務局より 石川有香	7頁

大会参加者として受付に記録された数は98名。支部大会としてはかなり大規模なものとなった。数自体を問題にしているわけではないが、やはり多く集まれば、発表者はそれだけで元気をもらえる。講演やシンポジウムになればその効果はさらに大きくなる。主催者も勇気づけられるし、参加者も「次回もぜひ」という気持ちになる。相乗効果が起こるのである。

実は、今回のような動きは定例研究会からすでにあった。支部大会の前に2回の定例研究会があったが、いずれも40人に迫る参加者があった。なぜ多くの参加者を得られるようになったか。この疑問の答えは複数あるかもしれないが、参加者の顔ぶれを思い起こすと、支部の研究会活動がかなり活発になっていることが大きな要因であると思う。研究会は月1回か、隔月で1回の割合で行われている。中部支部においてはそれぞれの研究会が地道にかつ活発に活動してきた。今回の支部大会もそういう活動が基盤となって、それぞれの研究会活動に関係する人々々が中心となって参加者の数を増やしたと分析している。よって、今後も研究会活動のさらなる発展が望まれる。そして、このうねりの中に大学院の学生を一人でも多く巻き込みたいと思っている。

ところで今回の支部大会では初めて会計報告をしなかった。理由は、「支部会計」というものが原則的には存在しなくなったからだ。ただし、本部の会計は各支部の予算と無関係ではない。社団法人化の最大のきっかけが「会計の透明性を高める」ことであったことを思い起こせば、支部として今後やるべきことは、支部の研究活動とその予算的裏付けである。この関係をより適正なものにするためには、原則としてはなくなった「支部会計」の中身を今まで以上に各支部が正確に把握し、活動計画を確実に実行していく必要がある。

支部としての研究活動の方向性が見えてきた今、

本腰を入れて取り組みたいのは「支部予算」の健全な組み立てと執行の仕方をより早く習得することである。このことを支部会員の皆様と確認し、一人でも多くの方々にその学びにも参画していただきたいと願う。

5th CamTESOL 2009

津田早苗 (東海学園大学)

2009年2月21日22日の両日カンボジアのプノンペンで“The Globalization of ELT: Emerging Directions”と題して開催された5th CamTESOL Conference on English Language Teachingに出席した。学会のサイト(<http://www.camtesol.org/2009conference/index.html>)を参考にして学会の様子を紹介しよう。1207名の参加者のうち770名はカンボジア人で278人は海外の参加者であった。カンボジア人の参加者のうち282人が地方の参加者であり、その内の243人は学会参加者の寄付やアメリカ政府の援助により参加した国立・公立の高校の教員である。

学会の開会日はたまたまポルポトの虐殺に関係したツールスレン収容所の所長ドッチ被告の裁判が開始された日であり、30年前にカンボジア人の5人に1人が犠牲になった国なのだ意識を新たにしたい。基調講演はTESOL会長を務めたこともあるアリゾナ大学英語学部長 Dr. Jun Liuによる“Complexities and Challenges in Training Non-native English Speaking Teachers: State-of-the-Art”であった。

中国出身であり自身も英語母語話者でないLiu教授は優れた英語教師は母語話者である必要はなく、非母語話者も同様にこの分野に貢献できることを熱く語った。

研究発表は35度以上の気温にもかかわらず空調なしで、外の空気が自由に入る教室で行なわれたが、どの教室も入りきれないほどの参加者であふれていた。2日間を通して外国語教育への需要、熱意をひしひしと感じ、日本の現状とのギャップを感じざるを得なかった。あるオーストラリアからの発表者は、アンコールワットの近くの村で教科書や教室設備のないところでどのような教育をしたかについて発表した。教室には机や椅子も十分にはなく、生徒は成人だが戦乱の影響で母語の読み書きさえ満足に教育を受けていないという。大人になるまでに生涯で2、3年の教育しか受けていない受講生に観光関係の仕事で英語を使えるように訓練をした経験を聞き、カンボジアの置かれている現状に対する認識を新たにしたい。

CamTESOLは新しい学会であるにもかかわらず、1200人も参加者があり大変に活発である。例年学会の前日にプノンペンの教育施設の見学やその他のワークショップも開催されている。学会の成功は資金面のみならず、学会運営にも協力しているIDP (IELTSなど英語のプレースメントテストをアジア、オセアニアで実施している国際組織)に負うところが大きいようだ。それに加え、アンコールワット周辺の観光が大きな収入源であるカンボジアで外国語習得は生活の糧を得る手段と密接に結びついていることも大きな要因であろう。豊かさの中で目的を失いがちな日本の若者にも、ポルポト時代の喪失から

英検が大学の単位に!

世界レベルの英語力を

英検

後援：文部科学省

高校や短大・大学など、学校に入学後、英検資格を級に応じて英語科目の単位として認められます。

詳細はウェブサイトをご覧ください。

英検

検索

2009年度試験日程

※団体受験の場合は他に準会場日程あり

第1回
一次試験 6月14日(日)
二次試験 7月12日(日)
申込受付: 3/9(月)~5/21(木)協会必着
(5月18日(月)書店締切)

第2回
一次試験 10月18日(日)
二次試験 11月15日(日)
申込受付: 8/1(土)~9/25(金)協会必着
(9月23日(水)書店締切)

第3回
一次試験 2010年1月24日(日)
二次試験 2010年2月21日(日)
申込受付: 12/1(火)~12/24(木)協会必着
(12月21日(月)書店締切)

SEPA 日本英語検定協会

立ち上がりつつあるカンボジアの様子を見てもらいたいと感じた。

研究会活動報告

第2段階に入ったライティング研究会

ライティング研究会代表 木村友保

研究会の発展を5段階で表そうとすれば、第1段階は草創期で、会のメンバー確保が最大の関心事である。第2段階は、研究会の協議内容の充実を図る段階である。第3段階は、協議内容が焦点化する段階であると思う。第4段階は、研究会で協議してきた内容を国内・国外のシンポジウム等の機会を設定し、広く一般の教育関係者に問題提起をし、研究会の存在価値を普遍化する段階であると思う。そして、最後は研究会の構成メンバーがそれぞれ自分の関心事において「専門家」として自立した存在になる段階であると思う。

ライティング研究会は最初10人でスタートを切ったが、様々な紆余曲折を経て、現在は8人。構成メンバーも4人がオリジナルメンバーで、4人がその後加わった人たちだ。しかし、最初掲げた目標は変わっていない。つまり、ライティングの本質を研究し、その知見をもとに教育場面におけるライティング指導がどうあるべきかを探る研究活動を行う。そのためライティング研究の対象は英語ライティングにとどまらず、広く「書くこと」を対象とし、多角的に

ライティングをとらえる研究姿勢で活動している。現在は月1回開催を目標にして例会をもっているが、毎回参加者全員が「書くこと」の意義の深さを確認し、新たな好奇心が生み出されている。

ライティング研究会が現在取り組んでいる課題は3つある。1つ目がディスカッションやディベートに関係する議論展開をするライティングの研究成果をシンポジウムで発表するための準備をしている。テストの中のライティング問題の研究も着手した。さらに、リメディアル教育を考えるため「底辺校」と呼ばれる大学でのライティング指導のデータを取り始めた。研究会には6人から8人が集まり、深い議論が展開され、毎回大変充実した協議を重ねている。(ライティング研究会に関心のある方の連絡先は以下のとおり。名古屋外国語大学現代国際学部木村研究室—E-mail: kimurat@nufs.ac.jp—)

講演会報告 1

「国際英語」教育の原理と実践

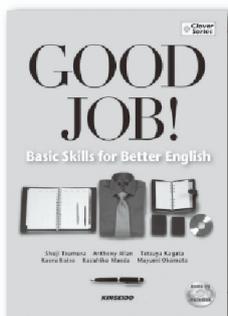
日野信行氏 (大阪大学)

2008年12月13日

(於：中京大学)

2008年12月13日(土)中京大学にて開催されたJACET中部支部定例研究会で、大阪大学の日野信行氏を講師としてお招きし、標記演題の講演が行われた。氏は、国際英語論を「英語が国際語として使われる

金星堂の **Clover Series**、それは2009年度スタートの新シリーズ。教育現場の声に応える英語再入門シリーズです。お気軽に審査用見本をご請求ください

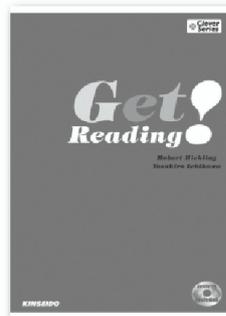


英語の最初歩をビジネスの場面を通して楽しく学ぶ

GOOD JOB!
—Basic Skills for Better English
『未来へ架ける英語の橋』

津村修志 / Anthony Allan / 加賀田哲也 / 小磯かをる / 前田和彦 / 岡本真由美 著

B5判、96ページ、全15章、定価(本体1,950円+税)
ISBN978-4-7647-3876-8



読解力と文法の基礎を徹底的にトレーニング

Get Reading!
『大学生のための読解演習と基本文法』

Robert Hickling / 市川泰弘 著

B5判、120ページ、全22章、定価(本体1,950円+税)
ISBN978-4-7647-3877-5



金星堂

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-21 電話(03)326-3828 FAX(03)3263-0716

URL: <http://www.kinsei-do.co.jp> E-mail: text@kinsei-do.co.jp

状況における英語教育上の概念」と定義し、英語の国際的使用は、英語に内在する性質によるものではなくその使用状況に依存しているに過ぎないと明言する。

国際英語論の基本理念は、言語は個々の使用者の文化・価値観に応じて変容するものであるため、日本における過去の英語教育教材は、米国の文化・価値観でのみ構成されていると氏は批判する。国際英語論に基づく教材選択の実践例として、様々な国・地域のメディアを使った氏独自の教材を提示する。また、speaking, writing においても米国式論理展開に限ることなく「起承転結」の日本的論理展開も認めるべきであると主張する。音声に関しても、日本式英語発音は理解されやすく肯定的に評価されていると説く。更に、教員も母語話者でなく非母語話者が中心にするべきであると主張する。これらの氏の主張は、国際英語論の基礎理念である「多様な英語に対する寛容な言語態度」を確信しているからこそ生み出されるのである。

最後に、国際英語論に内包される WE(World Englishes)論、EIL(English as an International English)論、EFL(English as a Lingua Franca)論を取り上げその異同について言及した。WE論の「ENL、ESL への偏重」、WFL 論の「母語話者中心主義の傾向」を指摘し、EIL 論を肯定的に氏は捉える。

氏の「国際英語」論を基底に据えた新しい英語教育の理論と実践は、今後の日本の英語教育に大きな影響を与えることが予想され、大変興味深い、また、大変意義深い講演であった。

吉川 寛 (中京大学)

講演会報告 2

脳科学と言語習得：画像可視化技術を中心とした可能性と課題

木下 徹氏 (名古屋大学)

2009年2月28日

(於：名城大学名駅サテライト)

2009年2月28日の定例研究会で、木下徹氏が「脳科学と言語習得：画像可視化技術を中心とした可能性と課題」のタイトルで講演をされた。近年、脳科学的手法が第二言語習得論や言語教授法の開発に応用され注目されている中、直面している課題とその解決の可能性について提案され、今後の研究発展に光をあてるものであった。

氏は、まず、脳科学の言語教育関連分野への応用の歴史を概観し、次いで、機能的磁気共鳴画像法 (fMRI) や近赤外分光法 (fNIRS) などの関連装置の種類と特徴について解説された。さらに、実際の研究事例を紹介し、英語学習者の母語の違いが、言語処理時の認知的負荷に影響を及ぼすことを示唆された。

その中で、これまで進められてきた脳機能イメージング法の言語教育への応用は、リーディングやリスニングなどの理解課題が中心であったことを指摘され、その理由として、スピーキングやライティング課題遂行時には、意識的であれ、無意識的であれ、実験参加者の動きが伴うため、その動きが脳血流量の測定に大きく影響するという技術的制約があるからだと説明された。

成美堂 2009年 新刊案内

Speaking in Public 総合教材・自己表現 1,900 円(税別)
Styling Corporate Messages 総合教材・企業紹介 --- 1,900 円(税別)
Science Square 総合教材・科学 1,800 円(税別)
Reading Expert 1 総合教材・速読・リマテ[®] イアル 1,800 円(税別)
Welcome to BBC on DVD DVD 教材・ト[®] キュンタリー 2,300 円(税別)
Tune up for the TOEIC[®] Test Listening 900 円(税別)
 リスニング 副教材・TOEIC[®]
Scaffolding 英作文・英文法 1,900 円(税別)
Living Grammar 英文法・リマテ[®] イアル 1,900 円(税別)
Access to Simple Englis
 英文法・リマテ[®] イアル・web 学習 1,900 円(税別)

Meet the World 2009/2010 時事英語 1,900 円(税別)
Made in Britain リーディング・イ[®] ラス事情 1,800 円(税別)
Essential Approach for the TOEIC[®] Test 2,000 円(税別)
 TOEIC[®] 総合教材
The TOEIC[®] Test Practice with Core Vocabulary Book 2
 TOEIC[®] 総合教材 2,000 円(税別)
Pharmaceutical English 1 薬学英語 3,000 円(税別)
Children's Garden 保育英語 2,400 円(税別)

株式会社 成美堂 **SEIBIDO**

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-22
 TEL 03-3291-2261 / FAX 03-3293-5490

URL: <https://www.seibido.co.jp> e-mail: seibido@seibido.co.jp

そこで、脳科学研究の言語教育への応用における次のステップとして、スピーキング課題遂行時の脳血流量の測定方法を検討されている。Dogil et al. (2001)の韻律と統語に関する研究や、Ackermann & Riecker (2003)のスピーキングにおける研究等を紹介され、スピーキング時には側頭筋の動きが「島葉 (insula)」（耳に近い部位）の左前方部に寄与していることに注目された。

このことをヒントに、スピーキング時の脳血流量測定について、差分法の応用の可能性（ターゲットとする活動とそれに影響を与えるがその活動自体は含まない活動の比較により、純粹にターゲット活動による変化のみを取り出そうとする技法）を示唆された。つまり、スピーキング時に使用する口の周りの筋肉の動きに対する脳血流量の反応のみを口パク運動によって測定し、スピーキング時の脳血流量より差し引く方法を用いることで、スピーキングが関与した脳の部位の測定が可能であることを研究事例を用いて示された。

この点については、さらに実証研究を積み重ねる必要はあるが、言語教育学の分野で、スピーキング、ライティング研究における脳科学からのアプローチの可能性を広げ、今後の研究発展に大きく貢献すると思われる。

大石晴美（岐阜聖徳学園大学）

会員著書紹介

河原俊昭・岡戸浩子（共編著）
『国際結婚—多言語化する家族と
アイデンティティ』
明石書店（2009年 317頁）

関西支部の河原俊昭氏と中部支部会員の岡戸浩子氏が共編者となり、他の11名の著者と共同執筆した書物が出版された。近年日本で増加している国際結婚と言語の問題を、個別事例や調査結果を示しつつ、多様な角度から取り上げた興味深い書であり、9つの章と4つのコラムから構成されている。

第1章（近藤功）は山形県で中国人妻が経験している異文化葛藤と言語の問題を取り上げ、第2章（猿橋順子）は日本人と結婚したアジア人女性のための支援のあり方を話題にしている。夫が「言語管理」を独占的に担当せざるを得ないという現実が外国人妻のエンパワメントの減退を招いているという指摘は重要であり、支援する側の心得についても貴重な提案がなされている。第3章（仲潔）では国際「離婚」の問題を取り上げ、離婚においても言語の問題が外国人女性に不利な状況を生み出している事実を指摘している。第4章（江田優子ペギー）はシンガポール人との国際結婚において、家族間で多言語の使い分けが自然に行なわれている様子を、また第5章（後藤田遊子）では、オーストラリア在住で国際結婚をした日本人女性が、在住年数を重ねる中で、英語を自分の英語として吸収していく様子を、紹介している。第6章（岡戸浩子）では日本人と英語圏出身者の「異文化結婚」と言語に関して、意識調査

南雲堂の英語テキスト

ご審査用見本請求はこちらから <http://www.nanun-do.co.jp>

2009年度新刊 木村友保先生のテキスト！！

<時事英語・リスニング>

NHK WORLD NEWS : Global Perspectives

NHK ワールド・ニュースで学ぶ『聴く英語、読む英語』

木村友保 / NHK国際放送局監修 B5判 104頁 CD付 2100円（税込）

NHK ワールド・ニュースとともに時事英語を完全マスター！ 3段階のリスニングパートで時事英語に慣れ親しみ、必須の英単語を確認。リーディングパートでトピックニュースを完全理解！ 全24章、各章4ページ構成。

片野田浩子先生 大好評 TOEIC シリーズ！

<TOEIC>

A shorter Course in TOEIC Test Listening 450, 550, 650

K(カタノダ)メソッズによる5分間 TOEIC テストリスニングシリーズ

A shorter Course in TOEIC Test Reading 450, 550, 650

K(カタノダ)メソッズによる5分間 TOEIC テストリーディングシリーズ

サブテキストに！
半期用教材として！
使い方多様、大好評5分間シリーズ
B5判 各735円（税込）

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 361 南雲堂 TEL03-3268-2311/FAX03-3269-2486

とインタビューを実施し、家庭内では英語が中心的に使用されていること、また、日本人配偶者は英語を重視しているが、英語圏出身者は日本人配偶者の英語使用に過大な期待をしていないという調査結果を示している。第7章（辻建一）は石川県で活躍している欧米出身の文化人や芸術家などの国際結婚夫婦を取り上げているが、地域で人気の彼らの場合「アメリカ人、すごい」などと言う不可解な「肯定的差別」を受けたりするという。第8章（柿原武史）では、阪神地域在住のペルーやアルゼンチン出身の妻と日本人夫の結婚生活について調査を行い、日常生活では日本語が中心となり、妻の母語であるスペイン語が重視されていない様子を取り上げている。

最終章では国際結婚と言語の問題について、河原氏が総括的な分析を行っている。昔は日本人女性と欧米人男性との国際結婚が多かったが、現在は日本人男性とアジア諸国女性との結婚が増加しているという事実や、結婚相手の国籍により、日本人配偶者の男女比率が異なるという指摘は興味深い。また、家庭内での言語選択に影響を与える6つの要因が整理された点が重要である。「居住地の言語」であるか否か、大言語か少数言語か、経済的影響力の大きな言語か否か、夫婦のうちで経済力をもつ側の母語か否か、夫婦のうちで年長者の母語か否か、学習経験の長い言語か否か、などが家庭内での言語選択や子どもの継承言語の決定要因になるという。国際結婚の言語選択は、結局、社会における不公平さの問題と繋がっているという指摘も極めて意味深い。コラム（安江、斉藤、一ツ山、山川）も充実しており、支部会員必読の書である。

小宮富子(岡崎女子短期大学)

【掲示板】

『JACET 中部支部紀要』第7号論文募集について

2009年12月発行予定の『JACET 中部支部紀要』第7号の原稿を以下のように募集します。ふるってご応募下さい。

- ・原稿締め切り：2009年8月20日（必着）
- ・提出先：JACET 中部支部事務局
- ・投稿規程：『JACET 中部支部紀要』第6号巻末及び、JACET 中部支部ホームページに掲載（投稿料無料）

JACET 中部支部紀要編集委員会

事務局より

◆ 新入会員のご紹介

2009年1月より5月までの中部支部所属新入会員は以下の方々です。（敬称略、入会順）

上原義正（日本大学）、杉村 藍（名古屋女子大学短期大学部）、鈴木寿摩（南山大学）、阪上辰也（名古屋大学）、室 淳子（名古屋外国語大学）、リバックマーク（名古屋大学）、水野眞紀（名古屋外国語大学）、鎌倉義士（バーミンガム大学(大学院生)）、奥村信彦（長野工業高等専門学校）、新多 了（名古屋学院大学）、関 静乃（静岡大学）、張 建英（名古屋大学(大学院生)）、King, Gregory（中部大学）、加藤優子（仁愛大学）、Lync, Gavin（北陸学院大学）、Crosby, Ron（岐阜聖徳学園大学）

TOEIC® TEST 対策 e-Learning

TOEIC®スコア 450 / 750 保証

- > 大学でのシラバス導入 / 成績評価 50%の実績!!
- > サーバー不要!! 学内外で即利用可能（全国配備 250 台超）

■お問合せ先：ミックインターナショナル株式会社
〒461-0001 愛知県名古屋市東区泉 1-23-37 パシフィックカレッジビル 6F
TEL: 052-955-3333 FAX: 052-955-3334
<http://www.mikintl.jp> E-Mail: info@mikintl.jp

Newton group
(技術担当) グローバルエフォート
〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦 2-17-11 伏見山京ビル 1F,7F
TEL: 052-204-0305 + 専用線 708 FAX: 052-204-3888
<http://www.global-effort.com> E-Mail: info@global-effort.com

◆ 2009年3月22日の社員総会および6月6日の支部総会の承認を経て、2009年度支部役員、2009年度支部予算が以下のように決まりました。支部役員の任期は2010年3月末日までとなります。

1) 2009年度支部役員・研究企画委員（敬称略、50音順）

顧問	田中春美（南山大学名誉教授）
理事	木村友保（名古屋外国語大学） 塩澤 正（中部大学）
支部長	木村友保（名古屋外国語大学）
副支部長	清水克正（名古屋学院大学）
事務局幹事	石川有香（名古屋工業大学）
幹事	伊藤光彦（豊橋技術科学大学） 大石晴美（岐阜聖徳学園大学） 大森裕實（愛知県立大学）

社員（15名）

石川有香（名古屋工業大学）、伊藤光彦（豊橋技術科学大学）、大石晴美（岐阜聖徳学園大学）、大森裕實（愛知県立大学）、岡戸浩子（名城大学）、片野田浩子（名古屋経営短期大学）、倉橋洋子（東海学園大学）、小宮富子（岡崎女子短期大学）、鹿野 緑（南山大学）、清水克正（名古屋学院大学）、下内 充（東海学院大学）、津田早苗（東海学園大学）、村田泰美（名城大学）、吉川 寛（中京大学）、若月 剛（金城学院大学）

研究企画委員（21名）

石川有香、伊藤光彦、榎木園鉄也（中京大学）、大石晴美、大森裕實、岡戸浩子、片野田浩子、倉橋洋子、小宮富子、佐藤雄大（名古屋大学）、鹿野 緑、清水克正、下内 充、津田早苗、丹羽義信（名古屋大学名誉教授）、馬場景子（中部大学）、村田泰美、室 淳子（名古屋外国語大学）、山中秀三（元名古屋女子大学）、吉川 寛、若月 剛

支部紀要編集委員

倉橋洋子（紀要編集委員長）、大森裕實、小宮富子、塩澤 正、下内 充、山中秀三、吉川 寛

2) 2009年度支部予算(支出の部)

[1] 事業費支出

(1) 大会セミナーなど事業（1号事業）	
大会運営費（支部大会、支部例会講演会を含む）	281,600
通信費（1号事業）	144,000
印刷費（1号事業）	110,000
出張費（1号事業）	0
(2) 出版物刊行事業（2号事業）	
通信費（2号事業通常）	111,500
印刷費（2号事業通常）	324,000
(3) 表彰協力事業（3号事業）	0
(4) 調査研究事業（4号事業）	0
(5) その他事業（5号事業）	0
会議費	45,000
通信費	60,000
[2] 管理費支出	
事務所経費	116,000
事業活動支出計	1,192,100

◆2010年度の支部選出社員候補者および研究企画委員候補者・支部事業案・支部予算案が、2009年度支部総会に提出されました。2009年度第2回社員総会の承認までに生じる変更については、支部役員会に一任することを含め、すべての案が承認されました。

1) 2010年度 支部社員候補者および研究企画委員候補者（2年任期）

社員候補者（15名）

石川有香（名古屋工業大学）、大石晴美（岐阜聖徳学園大学）、大森裕實（愛知県立大学）、岡戸浩子（名城大学）、片野田浩子（名古屋経営短期大学）、倉橋洋子（東海学園大学）、小宮富子（岡崎女子短期大学）、鹿野 緑（南山大学）、清水克正（名古屋学院大学）、下内 充（東海学院大学）、塩澤 正（中部大学）、津田早苗（東海学園大学）、馬場景子（中部大学）、村田泰美（名城大学）、吉川 寛（中京大学）

研究企画委員候補者（20名）

石川有香、榎木園鉄也（中京大学）、大石晴美、大森裕實、岡戸浩子、片野田浩子、倉橋洋子、小宮富子、佐藤雄大（名古屋大学）、鹿野 緑、清水克正、下内 充、塩澤 正、津田早苗、丹羽義信（名古屋大学名誉教授）、馬場景子、村田泰美、室 淳子（名古屋外国語大学）、山中秀三（元名古屋女子大学）、吉川 寛

2) 2010年度 支部事業案

I. 大会、セミナーなどの開催（1号事業）

(1) 中部支部大会の開催

日時：2010年6月（予定）

場所：未定

内容：研究発表の募集は、2月～3月を予定

(2) 講演会（南山短期大学との共催）の開催

日時：2010年10月（予定）

場所：南山短期大学

(3) 定例研究会の開催

日時：2010年12月（予定）、2011年2月（予定）

内容：研究発表の募集は、それぞれ10月～11月、12月～1月を予定

II. 『紀要』『支部ニュースレター』等の出版物の刊行（2号事業）

(1) 『中部支部紀要』8号の刊行

日時：2010年12月10日

(2) 支部ニュースレター（JACET-Chubu Newsletter）の刊行

日時：No. 24 2010年6月（予定）

No. 25 2010年12月（予定）

III. その他（5号事業）

(1) 支部総会の開催

日時：2010年6月（予定）

場所：未定

(2) 支部役員会の開催

名称：JACET 中部支部役員会（予定）

日時：第1回 2010年4月、第2回 2010年5月、
第3回 2010年6月、第4回 2010年10月、
第5回 2010年11月、第6回 2010年12月、
第7回 2011年2月

場所：未定

3) 2010年度 支部予算案（支出の部）

[1] 事業費支出

(1) 大会セミナーなど事業（1号事業）

大会運営費

（支部大会、支部例会講演会を含む） 281,600

通信費（1号事業） 144,000

印刷費（1号事業） 110,000

出張費（1号事業） 0

(2) 出版物刊行事業（2号事業）

通信費（2号事業通常） 111,500

印刷費（2号事業通常） 324,000

(3) 表彰協力事業（3号事業）

0

(4) 調査研究事業（4号事業）

0

(5) その他事業（5号事業）

0

会議費 45,000

通信費 60,000

[2] 管理費支出

事務所経費 116,000

事業活動支出計 1,192,100

◆ 2009年度 JACET 全国大会ご案内

第48回全国大会は2009年9月4日（金）・5日（土）・6日（日）の3日間、北海学園大学豊平キャンパスにて開催されます。

大会テーマ：「国際交流「新」時代における大学英語教育カリキュラム刷新」

◆ 2009年度講演会ご案内（南山短期大学との共催）

10月17日に南山短期大学にて講演会を開催します。講師は中山俊宏氏（津田塾大学国際関係学科）です。（参加無料）

◆ 2009年度定例研究会を以下の日程で開催予定です。研究発表希望者は、氏名・所属・タイトル・概要（日本語300字または英語200語程度）・希望発表日を記載の上、メールで事務局までお送りください。件名は「JACET 定例研究会発表申し込み」としてください。

第1回定例研究会 2009年12月19日

（発表申し込み締め切り11月14日）

第2回定例研究会 2010年2月27日

（発表申し込み締め切り1月5日）

◆ ニュースレターは会員の皆様のフォーラムです。ご意見、ご要望、会員フォーラムへのご投稿がございましたら、事務局までe-mailにてお知らせください。

事務局：石川有香 ishikawa.yuka@nitech.ac.jp

JACET-Chubu Newsletter 第22号

2009年7月20日発行

発行者：大学英語教育学会中部支部

木村友保

編集者：石川有香 佐藤雄大 片野田浩子